

# 平成18年度 事業報告

JSAFオリンピック特別委員会 委員長：山田 敏雄

副：

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
オリンピック特別委員会は年度事業計画に基づき以下の事業を推進いたしました。			
次世代を担う選手の育成・強化に関しては「競技力向上委員会」と連携を保って推進いたしました。			重点目標の100%実現は未達に終わりましたが、オリンピックの3年前として体制の整備は出来たと考えています。
<b>2006年度の重点目標は以下の通りです。</b>			
1. 北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞			2007年はオリンピック前年として一層の体制整備、選手の活動環境の整備に取組み
2. アジア大会(2006年12月カタール)のオリンピッククラス全種目金メダルの獲得			カスカイスで開催されるオリンピック種目合同世界選手権大会で参加全種目
3. 選手が強化活動をスムーズに行える環境の整備と体制造り			オリンピック参加枠獲得を目指します。
4. JOCゴールドプランに基づく次世代を担う選手の育成・強化			
5. 事業別予算・実績管理の徹底と効率的な資金計画・運用			
<b>I. 国内強化合宿</b>			
(1) レーザーラジアル級ナショナルチーム強化合宿	6月6日～6月11日	静岡県御前崎	本合宿にはレーザー級ナショナルチーム選手も自主練習会を実施、ISAFワールドユース代表選手も参加しトップ選手の技量を吸収いたしました。
(2) レザー級ナショナルチーム強化合宿	7月1日～6日	佐賀県唐津	
(3) レーザー級コーチ招聘合宿	8月8日～13日	静岡県御前崎	昨年に引き続きスエーデンからアテネオリンピック6位のカーネルネルソン氏を招聘、9月濟州島世界選手権大会参加選手の強化を行いました。
(4) 470級選手招聘合宿	10月14日～17日	神奈川県江ノ島	女子：ウクライナチーム Talan / Pakholchyk 組を招聘しました。 (アトランク、シドニー、アテネ五輪の銅メダリスト)
(5) JISS(国立スポーツ科学センター)フィットネス合宿	3月5日～8日	JISS(国立スポーツ科学センター)	2005年からの継続事業である合宿を2007年ナショナルチーム選手36名を対象に実施 本合宿の目的はメディカル、フィットネス、スキル、メンタル、栄養の5つのカテゴリーにおいて、「トータルスポーツクリニック」(以下TSCと称す)測定、検査を行い競技者の心身の状態や資質を評価しより競技力向上のためのデータ蓄積、アドバイスを提供する事です。
<b>II. 競技会開催</b>			
(1) ISAFワールドユース2006日本代表選手選考会	5月5日～7日	佐賀県唐津	競技力向上委員会と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業
(2) 470ジュニアワールド 西日本選考会	6月3日～4日	兵庫県西宮	々
(3) 々 東日本選考会	6月11日～12日	神奈川県葉山	々
(4) JSAFオリンピックウィーク	10月18日～22日	神奈川県江ノ島	オリンピック種目と合わせユース種目(420/FJ/レーザー/レーザーラジアル/シホッパー及びSR級)で大会を開催するが、10月は国体の時期やインカレに近いことで参加が減少傾向 今後、他大会日程を考慮し多くの参加者を集める工夫が必要。
(5) 2007年ナショナルチーム選考レース	2月1日～8日	神奈川県葉山	470級男子11艇、女子6艇、レーザー級9艇、ラジアル級6艇、RS:X級男子10艇、女子5艇の47艇、64名の選手が参加し開催いたしました。(成績は別紙参照)
<b>III. 海外派遣</b>			
以下の海外派遣事業を行いました。			
〈ナショナルチーム選手〉			
1. ヨーロッパ遠征	4月初旬～5月下旬	スペイン・マヨルカ島	各クラス、選手のレベルアップを目標に以下のヨーロッパ遠征を行いました。 1. プリンセスソフィアレガッタ 4月6日～4月13日 スペイン・マヨルカ島 参加艇 470級男子2、女子3、レーザー級4、ラジアル級2、イングリッド級1
		フランス・イェール	2. イェールオリンピックウィーク 4月21日～4月28日 フランス・イェール 参加艇 470級男子3、女子3、レーザー級4、ラジアル級2、イングリッド級1 RS:X級女子1、49er級1

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
2. ISAFセーリングゲーム	5月6日～20日		3. ISAFセーリングゲーム 5月6日～5月20日 オーストリア・Lake Neusiedl 参加艇 470級男子3、女子3、レーザー級4、ラジアル級2、RS:X男子1、女子1
3. 種目別世界選手権大会	6月～9月		1. 49er級世界選手権大会 6月4日～11日 フランス・エクスルバン 2. イングリング級世界選手権大会 6月25日～7月8日 フランス・ラ ロッシュェル 3. レーザーラジアル世界選手権大会 7月30日～8月4日 米国・マリナーデルレイ 4. レーザー級世界選手権大会 9月5日～9月20日 韓国・済州島 5. 470級世界選手権大会 9月4日～9月13日 中国・日照 6. RS:X級世界選手権大会 9月20日～9月30日 イタリア・トルボレ 7. スター級世界選手権大会 9月27日～10月8日 アメリカ・サンフランシスコ
オリ特ランキングの判定			種目別世界選手権大会の結果で種別・個人別ランキングを判定しました。 ランキングにより2007年強化事業に於ける補助内容等が決定します。 <ランキング制度の目的> <b>【目的】⇒公示より抜粋</b> 強化対象オリンピック艇種およびその他のオリンピック艇種の選手を対象に2006年度世界選手権大会（V. その他4.「世界選手権が開催されない艇種の取り扱い」を除く）の成績で2007年度事業における艇種別ランキング、個人ランキングを明確にし、それを基に2007年度NT数、強化費およびその他補助の算定基準とし、選手強化を図る事を目的とする。 本ランキング制度は、2008年世界選手権大会まで継続する。ただし係数等で問題があるとオリンピック特別委員会が判断した場合は変更する場合がある。 (ランキング結果は別紙参照)
4. オリンピックテストイベント	8月18日～31日	中国・青島	2008年オリンピックセーリング競技開催地の中国・青島でオリンピックテストイベントが開催され参加 参加種目： 470男子 2艇 松永・上野組、関・柳川組 470女子 2艇 田畑・栗田組、吉迫・大熊組 49er 2艇 石橋・牧野組、轟・高橋組 RSX男子 2艇 富澤、杉原 RSX女子 2艇 小菅、須長 イングリグ 1艇 重・堀内・江口組 今年は各クラス2艇ずつ6クラス選手19名での参加となったが、2007年プレ五輪は各種目1艇の参加しか出来ず、日本からは9クラス15名になる予定。8月8日にオリンピックハーバーがオープンのため、7月後半からの現地入りで準備を進めていく予定
5. 第15回アジア競技大会	12月1日～15日	カタール・ドーハー	第15回アジア競技大会がカタール・ドーハーで開催され8種目に選手12名、役員4名が参加 金1、銀4、銅1のメダルを獲得した。 参加種目：470級男女、レーザー級、420級男女、ミストラル級女子、OP級男女 オリンピック種目において全種目金メダル獲得の目標は達成出来なかったが参加全種目で6位以内入賞をしJOC目標は達成、一方、アジア諸国（特にシンガポール）はジュニアからの一貫指導プログラムを充実させており、次世代を担う選手の育成・強化に本腰を入れる必要を痛感した大会であった。JOCもまずアジアで勝利する事を目標として掲げておりその方針に沿って
<ジュニア・ユース選手>			「競技力向上委員会」と連携、次世代を担う選手の育成・強化を目的に海外派遣を行います ISAFワールドユースは2012年ロンドンオリンピックセーリング競技開催予定地であるウエイマズで開催されました。
1. ISAFワールドユース選手権大会	7月12日～21日	イギリス・ウエイマズ	参加種目：420級男子、女子、レーザー級、レーザーラジアル級、RS:X級男子
2. 470級ジュニアワールド選手権大会	7月21日～30日	ドイツ・トラベミュンデ	トラベミュンデで開催された470級ジュニアワールド選手権大会に男子3艇を派遣しました。

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
IV.その他事業			
1. 上期選手・コーチ会議の開催	10月18日	江ノ島婦人センター	JSAFオリンピックウィークに合わせ江ノ島婦人センターにおいて上期選手・コーチ会議を開催、4-9月の事業報告、下期および2007年度事業計画の概要説明を行いました。
2. 2007年種目別ナショナルチーム数の決定	10月18日		上記会議時に2006年世界選手権大会の成績を基に算出した2007年ナショナルチーム数を発表、HPに公示しました。
3. 北京オリンピック代表選手最終選考の公示	1月21日	JSAF理事会	北京オリンピックに本代表候補選手選考方法について1月21日JSAF理事会の承認を得てHPに公示しました。
4. スポンサー招待会の開催	2月3日	神奈川県葉山	2007年ナショナルチーム選考レース時に日頃から支援を頂いている協賛・支援各社の招待会を開催、選考レースを観戦頂き、終了後に懇親会を開催、継続した支援をお願いいたしました。
5. ドーピング検査	2月3日～4日	同上	医事・科学委員会と連携し、2006年ドーピング競技中検査をナショナルチーム選考レース参加選手を対象に12検体行ないました。
6. マスコミ懇親会の開催	2月26日	岸記念体育館	マスコミにセーリング競技をより深く理解いただく趣旨でメディア懇談会を開催しました。2007年度ナショナルチームの紹介、2007年度強化スケジュールおよびオリンピック代表選手選考等について説明しました。懇談会には30名近いマスコミが参加、在京ナショナルチーム選手も8名が出席、マスコミ各社からは好評をえました。
7. 青島事前調査・準備	3月28日～31日	中国・青島	2007年プレオリンピック、2008年本番の諸準備を目的に青島を訪問、練習場ハーバーの確保、村外役員の宿舎、JSAF現地本部候補場所の選定等の準備を行いました。

#### <備考:反省点等>

北京オリンピックに向けての委員会が発足して2年が経過、新しい試み、選手が強化活動に取り組む環境作り等はある程度進捗したと考えています。

2007年度に入るとオリンピック本番までは約500日、カスカイスでのISAFオリンピック種目合同世界選手権大会で参加全種目枠取りを目指します。

オリンピック本番の準備にも取り掛かっていますが、これもプレオリンピック終了時にはある程度の目安を付ける必要があると思います。

トップ選手の強化体制はシステムも含めて構築出来つつありますが、課題は次世代を担う選手の育成・強化体制の確立であり、将来に渡って日本のセーリングが確固たる地位を保持するためには必要不可欠な事と考えています。「競技力向上委員会」との連携をより密にしてオリンピック強化と並行して推進する予定です。

2007年後半にはナショナルトレセンも動き出す予定であり文部科学、JOCの支援を受けながら一貫指導システムを確固たるものにする必要を痛感しています。